

第3章

現在のベトナムの子どもたちをめぐる状況

寺本 実

要旨：

ベトナムでは、右肩上がりの経済成長と現代化の進展を背景として、乳幼児の健康状況の改善、教育レベルの向上、教育の多様化、教育施設の改善といった健康面、教育面などで積極的な変化が見られる。その一方で、日本を含めた各国と同様にベトナムも多くの問題に直面している。少子化、二重負荷の問題、インターネットとりわけ巨大プラットフォームやソーシャルネットワークの浸透が子どもにもたらす影響、非行、子どもに対する暴力や虐待などの問題をベトナムも抱えている。

キーワード： 子どもの保護、ネット社会、暴力、虐待、二重負荷

ベトナムの子ども法によれば、ベトナムで子どもとは「16歳未満」の人である(寺本2025:23-24、28)¹。そのベトナムでは、「2030年までに上位中所得レベル、現代的な工業を有する発展途上国となり、2045年までに高所得の先進国になる」との目標実現に向けて、取り組みが続けられている。そして、2020年の1人当り月額平均収入は425万ドンであったが、2024年(速報値)には541万5000ドンに上昇した(Tổng cục thống kê 2025: 1005)。同期間に都市人口は全人口の36.8%から38.5%(Tổng cục thống kê 2025: 105)に増加しており、目標に沿った変化が起きている。

本稿では、現地資料の読み解きに基づき、ベトナムの子どもたちをめぐる諸状況について考察する。最初に積極的側面を含むいくつかの統計データを見た後、ベトナムの子どもたちが直面している問題について考える²。

1. ベトナムの子どもをめぐる積極的側面を含む状況

本節では、(1)健康・医療、(2)教育、(3)労働、に関する積極的側面を含む諸状況につ

いて概観する。

(1) 健康・医療

ベトナムでは5歳未満児の低体重率、低身長率が低下傾向にある(2.(3)②で後述)。ここでは、①乳幼児死亡率、②1歳未満児予防接種率について見る。

①乳幼児死亡率の低下

1歳未満児、5歳未満児の出生1000人当たり死亡率はともに減少する傾向にある。1歳未満児については、2015年時に1000人当たり14.7人が亡くなっていたが、2024年(速報値)には11.3人となった。5歳未満児に関しては同期間に22.1人から17.4人に減少している(表1参照)。診療所を中心とする草の根の医療体制の働きが要因の1つだと考えられる。なお都市と農村では、都市<農村の関係が依然として続いているが、その差は縮まる方向性にある。

②1歳未満児予防接種率の回復

次に、1歳未満児の予防接種率についてみる。2021~2023年に87.1~77.0%の範囲にまで下がっていた接種率が、2024年(速報値)には96.3%を記録した(表2参照)。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)禍の影響により崩れていた通常の予防接種体制が回復し始めたことが、背景の1つにあるものと考えられる。

表1 乳幼児死亡率の推移 (出生千人当たり)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (速報値)
1歳未満児	14.7	14.5	14.4	14.2	14.0	13.9	13.6	12.1	11.6	11.3
都市	8.6	8.5	8.4	8.3	8.2	8.1	7.2	7.0	7.0	7.0
農村	17.6	17.5	17.3	17.1	16.7	16.4	13.8	12.8	12.2	12.1
農村一都市	9	9	8.9	8.8	8.5	8.3	6.6	5.8	5.2	5.1
5歳未満児	22.1	21.8	21.5	21.4	21.0	22.3	20.5	18.9	17.4	16.9
都市	12.9	12.9	12.7	12.6	12.3	12.2	10.8	10.5	10.6	10.6
農村	26.5	26.4	26.0	25.7	25.1	24.6	20.6	19.7	18.3	18.1
農村一都市	13.6	13.5	13.3	13.1	12.8	12.4	9.8	9.2	7.7	7.5

(出所) Tổng cục thống kê 2025 : 130 に基づき筆者作成。

表2 1歳未満児予防接種率 (%)

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (速報値)
予防接種率	97.2	94.3	96.8	87.1	87.6	77.0	96.3

(出所) Tổng cục thống kê 2023 : 987、Tổng cục thống kê 2024 : 987、Tổng cục thống kê 2025 : 987 に基づき筆者作成。

(2)教育

教育に関しては、①15歳以上識字率、②「堅固な教室」の割合、③小中高のクラス数・教員数・生徒数、④大学、⑤幼稚園について見る³。

①15歳以上識字率の向上

日々の生活の在り方にも影響する識字能力については、15歳以上識字率が90%を超える高いレベルで着実に上昇している。男女格差、都市と農村の格差が、男>女、都市>農村という形で依然として存在するものの、その差は縮小する傾向にある(表3参照)。

表3 15歳以上の識字率の推移 (%)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (速報値)
全国値	94.9	95.0	95.1	94.8	95.8	95.4	95.7	96.1	96.6	96.6
男	96.6	96.6	96.7	96.5	97.0	96.7	96.9	97.2	97.5	97.6
女	93.3	93.5	93.6	93.2	94.6	94.1	94.5	95.1	95.7	95.7
男-女	3.3	3.1	3.1	3.3	2.4	2.6	2.4	2.1	1.8	1.9
都市	97.6	97.7	97.8	97.7	98.3	97.9	98.1	98.3	98.5	98.6
農村	93.5	93.6	93.6	93.2	94.3	93.9	94.2	94.8	95.4	95.4
都市-農村	4.1	4.1	4.2	4.5	4	4	3.9	3.5	3.1	3.2

(出所) Tổng cục thống kê 2025:146 に基づき筆者作成。

②「堅固な教室」の割合の上昇

「堅固な教室」の割合も増加傾向にある(表4参照)。「堅固な教室」とは、持続可能な資材で建設され、耐用年数が20年超の教室を指す(Tổng cục thống kê 2025[878])。公立学校・非公立学校、小学校・中学校・高校いずれもその割合が上昇している。2021年には公立学校における割合と非公立学校における割合が逆転した。ここで目に付くのは、非公立学校について、2020年に4%であったものが2021年に入り98.6%に急増したことである。持続的な経済成長が続く中で、教育機会の多様化ニーズが生まれていることが、背景の1つにあるのではないかと推測される(表5、7参照)。

表4 堅固な教室(phòng học kiên cố)*の割合 (%)

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (速報値)
公立	78.2	79.5	80.5	81.8	81.7	87.2	88.6	89.0	87.2
非公立	2.8	2.8	2.8	3.4	4.0	98.6	97.6	97.5	99.7
小学校	72.2	74.1	75.7	78.6	79.7	82.5	84.4	84.4	87.5
中学校	90.8	91.6	92.1	92.9	92.3	93.9	94.4	95.4	95.4
高校	96.6	97.1	96.8	97.6	96.8	96.5	97.0	97.3	97.9

(注)*持続可能な材質で建設され、耐用年数が20年超の教室(Tổng cục thống kê 2025:878)。

(出所)Tổng cục thống kê 2025:925に基づき筆者作成。

③小学校・中学校・高校のクラス数、教員数、生徒数

次に、クラス数、教員数、生徒数について見る。

(a)クラス数

ベトナムにおける学校全体のクラス数、中学校・高校のクラス数は、着実な伸びを示している。これに対し小学校は、非公立小学校については増加傾向にあるものの、小学校全体、公立小学校で減少傾向にある(表5参照)。

(b)教員数

教員数は、全体、中学校で微増しているが、ほぼ横這いと見ることができる。高校の教員数は増加している。しかし小学校では非公立学校で増加しているものの、公立学校では減少する傾向にある(表6参照)。

(c)生徒数

生徒数に関しては、全体、中学校・高校で増加している。他方、小学校については、非公立学校は増加しているものの、公立学校では減少している。非公立学校については、小学校、中学校、高校の生徒数がいずれも増加している。経済成長が続く中で、進学率が上昇していること、また、経済的に余裕があり非公立学校に通学することができる生徒が増えていることが分かる(表7参照)。

上記(a)、(b)、(c)で、中学校、高校については、いずれの項目も基本的に上昇傾向にあることが確認された。その一方、小学校については、非公立学校のクラス数、教員数、生徒数は伸びているものの、全体と公立小学校に関わる数値は減少している。こうした基調の背景の1つには、2.(1)で後述するようにベトナムで進む少子化の影響があるものと考えられる。

表5 クラス数の推移 (千)

	2020-2021	2021-2022	2022-2023	2023-2024	2024-2025 (速報値)
学校	511	516.8	517.8	520.6	522
公立	495.3	500.1	499.3	501.1	500.4
非公立	15.7	16.7	18.5	19.5	21.6
小学校	283.8	288.1	285.8	279.4	275.1
公立	278.3	281.9	279.1	273.0	268.2
非公立	5.5	6.2	6.7	6.4	6.9
中学校	158	158.9	160.4	167.4	170.3
公立	154.8	155.6	156.9	163.5	165.7
非公立	3.2	3.3	3.5	3.9	4.6
高校	69.2	69.7	71.4	73.8	76.6
公立	62.2	62.6	63.2	64.6	66.5
非公立	7.0	7.1	8.2	9.2	10.1

(出所) Tổng cục thống kê 2025 : 902 に基づき筆者作成。

表6 教員数の推移

(千人)

	2020-2021	2021-2022	2022-2023	2023-2024	2024-2025 (速報値)
学校	816.7	812.5	807.9	809.8	817.7
公立	790.8	784.1	778.7	779.0	784.1
非公立	25.9	28.4	29.2	30.8	33.6
小学校	384.7	382	379.2	379.2	381.6
公立	375.7	371.9	368.4	368.4	370.0
非公立	9.0	10.1	10.8	10.8	11.6
中学校	286.6	285.1	282.7	283.5	286.7
公立	282.2	280.1	278.0	278.4	280.9
非公立	4.4	5.0	4.7	5.1	5.8
高校	145.3	145.3	146.0	147.0	149.4
公立	132.9	132.1	132.3	132.2	133.2
非公立	12.4	13.2	13.7	14.8	16.2

(出所) Tổng cục thống kê 2025 : 902 に基づき筆者作成。

表7 生徒数の推移

(千人)

	2020-2021	2021-2022	2022-2023	2023-2024	2024-2025 (速報値)
学校	17547	17909.1	18127.5	18378.5	18564.9
公立	17067.4	17404.1	17564.1	17785	17908.2
非公立	479.6	505.0	563.4	593.5	656.7
小学校	8885.0	9201.4	9192.7	8876.3	8710.1
公立	8748.0	9048.7	9025.8	8721.6	8541.8
非公立	137.0	152.7	166.9	154.7	168.3
中学校	5910.4	5926.1	6054.2	6513	6710.5
公立	5822.9	5833.9	5958.8	6411.2	6589.4
非公立	87.5	92.2	95.4	101.8	121.1
高校	2751.6	2781.6	2880.4	2989.2	3144.3
公立	2496.5	2521.4	2579.4	2652.2	2777.0
非公立	255.1	260.2	301.0	337.0	367.3

(出所) Tổng cục thống kê 2025 : 902 に基づき筆者作成。

④ 大学教育

表8 大学教育の動き

	2019	2020	2021	2022	2023	2023-2019	2019-2023 上昇幅(%)
大学数	237	241	242	242	243	6	2.5
公立	172	175	175	175	176	4	2.3
非公立	65	66	67	67	67	2	3.1
教員数(千人)	73.1	76.6	78.2	79.5	84.0	10.9	14.9
公立	57.0	58.4	58.0	56.9	60.0	3	5.3
非公立	16.1	18.2	20.2	22.6	24.0	7.9	49.1
男	36.7	38.2	39.1	38.9	41.4	4.7	12.8
女	36.4	38.4	39.1	40.6	42.6	6.2	17.0
生徒数(千人)	1672.9	1906.0	2145.4	2036.7	2355.7	682.8	40.8
公立	1359.4	1540.6	1728.8	1612.8	1819.4	460	33.8
非公立	313.5	365.4	416.6	423.9	536.3	222.8	71.1
男	760.2	880.8	981.5	926.8	1087.4	327.2	43.0
女	912.7	1025.2	1163.9	1109.9	1268.3	355.6	39.0
人口1万人当り 大学生数(人)	173	195	218	205	235	62	35.8
公立	141	158	176	162	181	40	28.4
非公立	32	37	42	43	54	22	68.8

(出所) Tổng cục thống kê 2025 : 928 に基づき筆者作成。

大学教育に関しては(表8参照)、大学数は小幅の伸びにとどまっている。しかし、教員数は、全体で10%超の伸びを記録しており、特に非公立大学の教員数増が全体の数字を押し上げている。生徒数に関しては、全体で40%超増加した。公立で30%超、非公立では70%超の増加を記録している。人口1万人当りの大学生数も着実に増えている。

⑤ 幼稚園の動き

表9 幼稚園関連の動き

	2019-2020	2020-2021	2021-2022	2022-2023	2023-2024
幼稚園数	15033	15485	15316	15270	15199
教員数(千人)	268.3	281.4	276.3	280.7	286.3
園児数(千人)	4314.7	4327.7	3863.0	4249.8	4132.3
教員1人当り 生徒数(人)	16.1	15.4	14.0	15.1	14.4

(出所) Tổng cục thống kê ウェブサイト (2026年3月15日アクセス)

ベトナムでは就学前教育にも力を入れているが、少子化傾向もあって全体の舵取りはそれほど容易ではないと思われる。2021~2022年には生徒数が400万人を切ったが、これは新型コロナ感染症禍の影響だと考えられる。その後再び400万人を超えたが、生徒数は上下している。また幼稚園は、小学校と同様に教員1人当り生徒数が減る傾向にある(表9参照)⁴。少子化傾向(2.(1)参照)もその要因の1つだと考えられる。

上記1.(1)③では、中学、高校の生徒数増加傾向や非公立学校の増加傾向が見られたが、1.(1)④でも大学の生徒数増加、特に非公立大学に通う大学生の伸びが顕著であることが確認された。こうしたことから、ベトナムでは高学歴化と非公立学校の台頭といった教育選択肢の多様化が進んでいると考えられる。教員1人当り生徒数を見ても、中学校・高校・大学では増加しており、先述した傾向と一致している⁵。一方、幼稚園と小学校では生徒数が減少傾向にあり、教員1人当り生徒数も減少している。少子化の進行が原因の1つだと考えられる。

(3)労働

15～19歳の国内就業者数は減少傾向にある。減少幅も各年代中で2番目の減少幅となっている(表10参照)。当該年齢人口の減少、中学校・高校進学者数の増加、そして児童労働撤廃に向けた政府の取り組みの影響ではないかと考えられる。他の年代層に目を向けると、20～39歳の国内就業者数も減少傾向にある。また女性就業者数の減少幅は男性を上回っている。こうした状況の背景の1つとして、海外に働きに出る労働者数の増加があるのではないかと考えられる⁶。

表10 年齢・性別の就業労働者数 (千人)

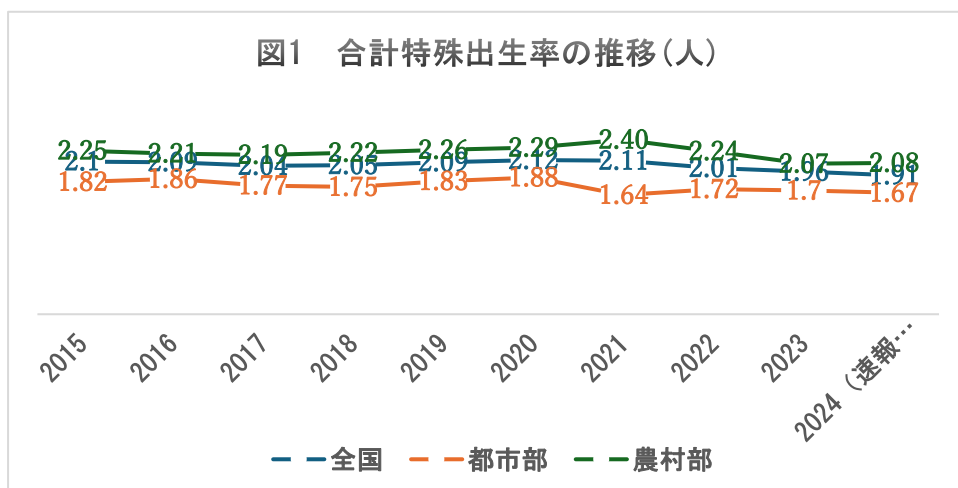
	2020	2021	2022	2023	2024 (速報値)	2024-2020	2024-2020 (%)
総数	53609.6	49072.0	50604.7	51287.0	51860.3	-1749.3	-3.3
男	28324.1	26238.9	26918.7	27269.0	27668.1	-656	-2.3
女	25285.5	22833.1	23686.0	24018.0	24192.2	-1093.3	-4.3
15-19歳	1678.1	1315.2	1351.1	1325.5	1318.8	-359.3	-21.4
20-24歳	3946.6	3343.7	3463.2	3939.6	3373.4	-573.2	-14.5
25-29歳	6218.6	5489.0	5281.9	4837.0	4512.9	-1705.7	-27.4
30-34歳	7262.6	6679.6	6855.9	6550.0	6386.3	-876.3	-12.1
35-39歳	7543.0	7060.0	7300.5	7260.8	7276.4	-266.6	-3.5
40-44歳	6736.5	6154.0	6592.1	6875.3	7275.5	539	8.0
45-49歳	6172.6	5670.3	6061.7	6200.1	6391.8	219.2	3.6
50歳+	14051.7	13360.3	13698.3	14298.7	15332.2	1280.5	9.1

(出所) Tổng cục thống kê 2025 : 167 に基づき報告者作成。

2. ベトナムの子どもたちが直面している問題

本節から、現地紙・現地ジャーナル、UNICEFの報告書などに基づき、ベトナムの子どもたちをめぐる諸課題について考える。ここでは、(1)少子化、(2)ネットをめぐる問題、(3)健康をめぐる問題、(4)非行(暴力、犯罪の若年化)、(5)虐待、の問題を取り上げる。

(1)少子化の進行



(出所) Tổng cục thống kê 2025 : 127 に基づき筆者作成。

表 11 ベトナムの 16 歳未満人口の推移 (千人)

	2020	2021	2022	2023	2024 (速報値)
全国	97582.7	98504.4	99467.9	100309.2	101343.8
16 歳未満人口	25098.6	25160.4	25451.1	25569.0	25305.5
18 歳未満人口	27896.3	28062.0	28330.4	28452.4	28393.7
16 歳未満人口/全国 (%)	25.7	25.5	25.6	25.5	25.0
18 歳未満人口/全国 (%)	28.6	28.5	28.5	28.4	28.0

(出所) Tổng cục thống kê 2025 : 981 に基づき報告者作成。

ベトナムでは、都市部・農村部ともに合計特殊出生率の減少が進んでいる(図 1 参照)。特に都市部では 2 人を下回る水準が続いている。第 12 期第 6 回党中央委総会決議 21 号(2017 年 10 月 25 日)に記されたベトナムの人口置換水準は 2.1 であるが、2022 年、2023 年、2024 年(速報値)の全国値はそれを下まわっている⁷。そして、総人口に占める 16 歳未満人口も減少傾向にある(表 11 参照)。ベトナムでは全人口に占める 65 歳人口の割合が 2011 年に 7%に達し、既に高齢化社会に該当している(Đại đoàn kết 2020 年 11 月 19 日)。少子高齢化の進行が、子どもたちにどのような影響を与えるのかについて、精神的、教育的、経済的側面などから多角的に調査研究を行い、対応策を準備する必要があると考えられる。

(2) ネットをめぐる問題

表 12 携帯電話使用の有無(2024年速報値) (%)

項目	割合
全国	84.8
都市	87.5
農村	83.0
男	85.7
女	83.8
6歳未満	28.1
6-11歳(小学校)	61.4
12-15歳(中学校)	80.6
16-18歳(高校)	95.4
19-24歳(大学)	98.2
25-29歳	98.3
30-34歳	98.2
35-39歳	98.1
40-44歳	97.9
45-49歳	97.2
50-54歳	96.7
55-59歳	95.0
60+	80.6

(出所) Tổng cục thống kê 2025[1056]に基づき報告者作成。

表 13 自宅PCの有無 (%)

	2020	2021	2022	2023	2024 (速報値)
全国	25.9	27.1	28.3	27.0	23.4
都市	42.4	42.5	44.0	42.7	35.3
農村	16.3	17.4	18.1	17.1	15.5

(出所) Tổng cục thống kê 2025:1053に基づき報告者作成。

表 14 インターネットへのアクセスとソーシャルネットへの参加 (%)

項目	インターネットへのアクセス	ソーシャルネットワークへの参加	情報技術技能の有無
全国	84.2	76.5	46.8
都市	89.1	82.3	57.3
農村	81.1	72.9	40.3
男	86.1	78.7	49.3
女	82.3	74.4	44.4
6歳未満	38.2	—	—
6-11歳(小学校)	86.8	40.9	54.3
12-15歳(中学校)	96.2	76.1	86.5
16-18歳(高校)	98.8	95.7	89.7
19-24歳(大学)	98.8	97.7	82.4
25-29歳	98.3	97.2	73.7
30-34歳	98.0	96.6	67.1
35-39歳	97.1	95.1	57.5
40-44歳	95.7	92.4	49.5
45-49歳	92.7	88.2	37.7
50-54歳	90.2	83.7	31.3
55-59歳	84.4	74.8	26
60+	61.4	50	18.1

(出所) Tổng cục thống kê 2025 : 1059,1065,1068 に基づき報告者作成。

ベトナムではデジタル化、情報技術の活用が積極的に進められている。仕事上のニーズ、各種手続きの負担軽減、必要情報の迅速な入手、日常的な交流における便益もあり、スマートフォンを手にする人たちが溢れている。本稿執筆現在、ベトナムではベトナムの民間IT企業VNG株式会社(Công ty cổ phần VNG:VNG)が運営するZalo⁸が広く普及しており、多くの人々、組織・機関が情報のやりとりや通知・告知などで使用している。

ベトナムでは人民証明書法により、14歳になると人民証明書を作らなくてはならない。そして「人民証明書を発給される者は公民である」と定められている(19条)。現在、その人民証明書にはICチップが搭載されている。ベトナムでは子ども法により16

歳未満が子どもとされているが、14歳からICチップを搭載した人民証明書を持つ公民と位置付けられる。また、6歳以上14歳未満の子どもたちも、電子ID登録

(VNeID=Vietnam Electronic Identification, Định danh điện tử)の対象者となる。このように、デジタル化が社会の根幹部分から進められ、子どもたちもその対象になっている。

情報電子機器やネットとの関係について見ると、6歳未満の子どもの携帯電話使用率は28.1%に達する。6～11歳61.4%、12～15歳80.6%、16～18歳95.4%と年齢が上がる度にその割合は上昇する(表12参照)。他方、ベトナムの各家庭におけるパーソナルコンピュータ(PC)保有率は全国平均で20%台に留まる(表13参照)。こうしたことから、子どもの多くは、PCよりも携帯電話に親しんでいる可能性が高い。

次に、表14はインターネットやソーシャルネットへの年代別アクセス・参加状況などをまとめたものである。6～11歳の子どもの40.9%、12～15歳の子どもの76.1%(いずれも2024年速報値)がソーシャルネットに参加している。16～18歳に至っては95%を超える。インターネットへのアクセスについては、6～11歳で85%を超え、12～18歳で95%超、中でも16～18歳は98.8%と、19歳～24歳と並んで各年代層の最高率を記録している。

次に、情報技術技能⁹について見ると、各年代層の中で最も技能を身に付けているのは12～18歳の層であり、85%を超えている(表14参照)。デジタル化時代への適応において先頭に行くのは、若年層であることが分かる。これは同時にリスクを負う可能性も高いことを意味する。

こうしたなか、ベトナム政府は政府議定147号(2024年11月9日制定、同年12月25日発効)を発出し、16歳未満の子どもがソーシャルネットアカウントに自身で登録することを禁止した(*Nhân Dân* 2025年4月2日)。16歳未満の子どもについては、父、母、保護者の名義で登録することとし、これらの人たちが使用状況を監視、管理する責任を持つ(同議定23条)としたのである。先述したZaloについては、ベトナム政府の管理が及ぶ国内企業によって運営されている。そのため、当局の監視を強く受ける可能性が高いと考えられる¹⁰。

グエン・チョン・アン元労働・傷病兵・社会省子ども保護局局长¹¹は、「大多数の子どもは、ネット上、デジタル環境の活動に参加する際、自身を守るために十分な技術を身に付けていない。有害で詐欺的な情報は、子どもたちを常に狙う、見分けにくい罠となっている」(*Đại đoàn kết* 2024年7月1日)と指摘している。

一例を記すと、小学生高学年時からFacebookを利用し、少なからぬ危険なアカウントに遭遇してきたという少年によると、「ゲームのリンクが送られてきて最初は無料だった。後に、入金すれば特典があると伝えられてお年玉すべてを入金したところ、アカウントがブロックされた」(*Đại đoàn kết* 2024年7月1日)という。政府議定147号発

出の背景には、このようにネット上で自身を守るための知識・経験の乏しい低年齢層がネット上で積極的に活動を行うことに対する当局の懸念があるものと考えられる。

次に、子どもへの負の影響が懸念されるインターネット、ソーシャルネットに関わる事項をまとめておきたい。それらには、①詐欺行為、②中毒・依存症、③暴力行為(犯罪の若年化、虐待)の誘発やイジメ、などがある。

① 詐欺行為

大人も対象となっているが、例えば上記したように、最初は無料として子どもを誘惑し、その誘いに乗ると機に乗じてお金を搾り取るような行為など。

② 中毒・依存症

ハノイ市バックマイ病院¹²の精神健康研究所の統計によると、インターネット中毒、オンラインゲーム中毒で入院する患者の43%を10～24歳の人たちが占める(Đại đoàn kết 2024年7月9日)。こうした中毒患者には以下のような症状が見られるという。(a)ゲーム時間を抑えられない、(b)意欲、好奇心(hung thú và sở thích¹³)の喪失、(c)不眠、(d)食欲不振、(e)イライラ、(f)自殺願望(Đại đoàn kết 2024年7月9日)。ハノイ市の13歳男児の例を記すと、同男児は夏休み中に電子ゲームに夢中になった。仕事で多忙な両親は、子どものリラックスや楽しみのためにと考えていた。しかし、以前より言葉数が減り、イライラしやすくなり、ぶっきらぼうになったのに気づき、注意していると夜更かししてゲームに熱中しているのが分かった。電子ゲームへのアクセスを禁じると、強く反応し、悲鳴を上げて泣く。そのため病院で治療を受けることになった(Đại đoàn kết 2024年7月9日)。

③ 暴力行為(犯罪の若年化、虐待)の誘発やイジメ

ネット上の有害な画像・情報に接した子どもが悪い影響を受けることに対する懸念も伝えられている。例えば2023年2月5日にメコンデルタ地域のキエンザン省で喧嘩のために武装した46人の青少年が逮捕された。フエ科学大学社会学・社会工作科ファム・ティエン・シ博士はこうした問題について、暴力的な映像・ビデオ、ゲームに接することを通して、青少年が無意識に暴力に染まり、慣れてしまっていることが原因かもしれないと指摘し、「TikTok、YouTube、Facebookのようなソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)上の暴力性を帯びた映像、ゲーム、ビデオに青少年が接するのを防ぎ、抑制する手段を文化管理者は持つ必要がある」と提案している(Đại đoàn kết 2023年4月14日)¹⁴。そして、悪口などをいうチャットグループ形成によるソーシャルネットを通じたイジメ行為の存在にも言及している(Đại đoàn kết 2023年4月14日)。

ベトナム当局は上記した政府議定発出のほか、有害アカウントの除去、TikTokや

Facebookなどにアップされた有害情報のチェック、そして子どもにとって安全なウェブサイトの普及努力など、さまざまな取り組みを行っている。

(3) 健康をめぐる問題

次に、ベトナムの子どもたちの健康をめぐる問題について見る。ベトナムは、子どもの肥満と栄養不良が同時に存在する二重負荷(double burden of malnutrition)の状況にあることが指摘されている。以下、それぞれ見ていくことにしたい。

① 肥満

世界保健機構(WHO)の基準によると、5～19歳の子どもについては、過体重の基準はBMI-for-ageのZスコア¹⁵が1SD(標準偏差)超、肥満の基準はBMI-for-ageのZスコアが2SD(標準偏差)超となっている¹⁶。通常WHOが提供する国際基準の成長曲線に対して当該国の子どものBMIを当てはめて判定する。

ベトナム全体について見ると、5歳未満児の過体重率は2000年に2.6%であったが、2019年には7.4%に増加した。5歳未満児の肥満率は公表されていない。5～19歳については、過体重率は2010年の8.5%から2020年には19%、肥満率は2010年2.5%、2020年8.1%と、過体重率、肥満率ともに上昇している(UNICEF 2021: 15)。

大都市では、状況がより深刻である可能性が高い。2024年、ハノイ市疾病検察センター(Trung tâm Kiểm soát bệnh tật thành phố=CDC)が関連組織と協力し、レー・ロイ小学校(ハードン郡)、グエン・ズー小学校(ホアンキエム郡)、ラー・タイン小学校(ドンダー郡)の小学生3600人を対象にして実施した調査によると、過体重・肥満の子どもの割合(tỷ lệ thừa cân béo phì)¹⁷は43.2%であった¹⁸。それぞれの小学校における数字は、43.7%、45.9%、34.9%である(Đại đoàn kết 2025年3月14日)。本項冒頭で記した全国値と比較すると、かなり高い数字となっている。こうしたことから、都市部では相対的に肥満化の傾向がより強いのではないかと推測される。このように過体重・肥満の子どもの割合が高い理由としては、(a)親がふっくらした子どもを心理的に好む傾向があり、特に5歳未満の子どもに過度に食べさせる傾向があること、(b)現代的生活の影響(通学のために歩いたり自転車に乗ったりしない、家で調理したり洗濯したりしない、電子設備の増加で動くことが少ない)が指摘されている(Đại đoàn kết 2025年3月14日)。筆者の観察に基づけば、ハンバーガーやピザ、麺類などのインスタント食品、菓子パンやスナック菓子類、清涼飲料水など、脂質や糖分を多く含む飲食物の普及も、子どもの過体重化、肥満化の原因の1つになっていると考えられる。

②栄養不良

次に栄養不良の状況について見る。ここでは、低体重率(weight-for-age)、低身長率(height-for-age)、消耗率(weight-for-height)について検討する。WHOは年齢ごとの身長、体重基準値をそれぞれ定めており、Zスコアを使って栄養状態を判定している。このZスコアが-2SDを下回ると、低体重や低身長に該当する。消耗率については、WHOが身長に対する体重の基準値を定めており、Zスコアが-2SDを下回ると栄養不良と判定される。

表15は、近年における5歳未満児の低体重率、低身長率、消耗率の推移を見たものである。ベトナムの低体重率、低身長率は徐々に低下する傾向にある。しかし、依然として低体重率で10%超、低身長率は20%に近い数値で推移している。また、消耗率は増加傾向にある。これは痩せすぎの子どもが増えていることを示している。農村と都市の数値は2020年と2021年のみ得られたが、都市部よりも農村部の栄養状態が悪いのが分かる。

表15 5歳未満栄養不良

(%)

項目	2020	2021	2022	2023	2024(速報値)
低体重率	11.5	11.2	10.2	9.7	10.4
男	11.7	11.3	-	-	-
女	11.3	11.0	-	-	-
都市	7.1	6.9	-	-	-
農村	15.6	15.4	-	-	-
低身長率	19.6	19.2	18.9	18.2	18.1
男	18.6	18.3	-	-	-
女	20.6	20.1	-	-	-
都市	12.4	12.0	-	-	-
農村	26.5	26.3	-	-	-
消耗率	4.2	3.6	4.4	4.4	5.6
男	3.7	3.4	-	-	-
女	4.3	4.0	-	-	-
都市	2.9	2.7	-	-	-
農村	4.7	4.5	-	-	-

(出所) Tổng cục thống kê 2025:989 に基づき報告者作成。

表 16 を見ると、ベトナムの子どもの栄養不良に関する背景の一端が看取できる。少数民族が多く暮らす北部山岳・北部中流地域、中部高原地域では、他地域と比べ、低体重率、低身長率、消耗率が一際高くなっている。その他の地域はいずれも全国値を下まわっており、少数民族が多く暮らすこれら 2 地域が全国地を引き上げる要因の 1 つになっていると考えられる。

表 16 地域別の 5 歳未満栄養不良状況(2024 年) (%)

地域	低体重率	低身長率	消耗率
全国	10.4	18.1	5.6
紅河デルタ地域	7.6	14.3	4.9
北部山岳・北部中流地域	14.4	23.8	6.5
中部北方・中部沿海地域	9.1	16.5	5.5
中部高原地域	19.1	27.3	6.1
南部東方地域	7.3	13.8	4.8
メコンデルタ地域	8.5	15.7	5.5

(出所) Tổng cục thống kê 2025 : 990-991 に基づき報告者作成。

以上のことから、ベトナムにおける二重負荷問題の背景には、都市と農村の格差、特に都市部で暮らす子どもたちと非都市部、特に少数民族居住地域で暮らす子どもたちの間の暮らし向きの違いがあるのではないかと考えられる。

医療省は、医療関係者を含む担当者の育成と能力向上、問題解決に向けたネットワーク構築などに取り組んでいる。栄養不良改善への取り組みでは、例えば現地で活動するセーブ・ザ・チルドレンとソンラー省(北部山岳・北部中流地域)人民委員会との協力による取り組みも日本の外務省の支援などを受けて実施されている¹⁹。

(4) 非行(暴力・犯罪の若年化)

次に、暴力と犯罪の若年化について見る。ベトナムの報道では、子どもによる暴力の問題や犯罪の若年化、凶悪化が伝えられている。速報値²⁰によれば、ベトナムでは毎年約 13000 人の青少年が犯罪を起こしている。年齢別に見ると、14 歳未満が 5.2%、14 歳～16 歳未満が 24.5%、16 歳～18 歳未満が 70.3%を占める (*Nhân Dân* 2024 年 1 月 9

日)。2. (2)でも少し言及したが、例えばベトナムでは青少年が絡んだ以下の事件の発生が伝えられている。

①2023年2月5日、南部のメコンデルタ地域に位置するキエンザン省で喧嘩のために武装した46人の青少年が公安に逮捕される(*Đại đoàn kết* 2023年4月14日)。

②2023年4月4日、中部のトゥアティエン＝フエ省フエ市の中学校で、友人との乱闘で生徒が死亡(*Đại đoàn kết* 2023年4月14日)。

③2023年4月7日、中部の中核都市ダナン市で、別の少年グループとの対立を力で解決しようとビール瓶、ガソリンを入れた水鉄砲で武装した22人の少年グループの行動を、公安が未然に防ぐ(*Đại đoàn kết* 2023年4月14日)。

④2023年10月、南部のメコンデルタ地域に位置するティエンザン省で、14歳の少年が実父との深刻な対立から、犬用毒餌を牛乳に入れ、父親と祖母を殺害する事件が起きる(*Nhân Dân* 2024年1月9日)。

⑤2023年12月22日、中部の中部高原地域に位置するラムドン省の高校生が意見の対立から父親を殺害し、証拠隠滅のために遺体を燃やすという事件が起きる(*Nhân Dân* 2024年1月9日)。

以上のような事件が発生する背景の1つには、先述したSNS上の有害な情報に日常的に接することによる影響もあると考えられる。現代を生きる子どもたちは、厳しい受験競争、未来の就職をめぐる競争、常に注意を要する交通環境、情報技術の「発展」による急激な社会変容と情報の氾濫、静かに心を休ませることを許さないネット社会、武力使用を伴う国際関係の緊張、感染症に罹病する危険性などにさらされている。厳しい受験競争や未来の就職をめぐる競争では、希望が叶う人とそうでない人が明確になる。例えば上記(4)③で言及した中部の中央直轄市ダナン市では、毎年約2000人が高校に進学出来ず、このうち職業学校に入学する者も50%に満たないという(*Nhân Dân* 2025年1月2日)。子どもたちの精神的、心理的状況について理解を深める必要があると考えられる²¹。

(5)暴力、虐待

子どもに対する暴力、虐待はベトナムでも問題になっている²²。2022年初めの段階でダン・ホア・ナム労働・傷病兵・社会省子ども局局长(役職当時)は、ベトナムでは平均で毎年約2000人の子どもが、公安機関の介入するような、深刻な虐待を受けているとしており、父、母、保護者が主な加害者だと指摘している(*Đặng Hoa Nam* 2022: 25)。親、保護者が加害者として挙げられていることから、この中には過度な体罰も含まれている可能性がある²³。ベトナムでは、「教育的な手段」として親などにより体罰

が用いられるケースがある(Đặng Thị Hoa 2025)²⁴。ちなみに阿部は、日本に関する調査に基づく「子どもの虐待と貧困の間には統計調査に裏付けられる相関関係がある」とする川松亮氏の研究結果を紹介し、両者の関係性に注目する必要を指摘している(阿部 2008:11-13)。

表 17 は子ども対象の性的犯罪起訴件数をまとめたものである²⁵。2023年と2024年の数値を比べると、いずれの項目も増加している。

例えばメコンデルタ地域について少し具体的な数字を出すと、カマウ省で子どもの性的虐待 26 件(2024年1月～2024年10月26日)、ロンアン省で16歳未満レイプ 10 件、13～16歳未満児との性交 13 件(2024年1月～6月)、チャヴィン省で子どもに対する性的虐待 35 件(2023年)、アンザン省で子どもの性的虐待 100 件近く(2021～2023年)が起きたという報道があった(*Sài Gòn Giải phóng* 2024年10月26日)。

表 17 子ども対象の犯罪の起訴件数

犯罪名称	2023年	2024
13-16歳児との性行為	1006(1048人)	1127(1154人)
16歳未満児へのレイプ	728(798人)	824(889人)
16歳未満児に対する猥褻行為	290(293人)	309(303人)
猥褻目的で16歳未満児を利用	9(21人)	—

(注)括弧内は起訴された被告の人数。

(出所)Tổng cục thống kê 2024[1079-1080]、Tổng cục thống kê 2025[1082-1083]に基づき報告者作成。

表 18 では、ベトナムで報道されたいくつかの事件事例を記した。これらの事件では、継父、いとこ等の親類や近所に住む住民が加害者となっている。表 17、表 18 は事件として取り扱われた件数であり、実態はこれよりも多いと推測される。

ベトナム当局は、子どもを保護するための法制度の整備とその実施、国家保護子ども保護ホットライン(番号 111)の設置、子ども・保護者に危険性や手口を理解する術について講習を行うなどの対応に努めている(寺本 2025:26-26、30-31; *Sài Gòn Giải phóng* 2024年10月26日など)²⁶。

表18 子どもの虐待の事例

<p><カマウ省></p> <ul style="list-style-type: none">・2024年4月(発覚)：少女が、7～15歳までに7人から性的虐待を受ける。犯行者7人のうち 6人は継父、いとこなどの親類。・2024年7月：数年前に体を悪くした男性を気につけ、近所に住む家族が家を訪れてケアをしていたところ、同男性の養子が同家族の5歳の娘に犯行。
<p><アンザン省></p> <ul style="list-style-type: none">・2024年2月：飲みに行った帰りに近所に住む男(1994年生まれ)が、1人で自宅にいた女兒に犯行。後に女兒の妊娠が分かり、発覚。
<p><ホーチミン市></p> <ul style="list-style-type: none">・2023年3月、当時3歳の愛人の子どもに麻薬を吸わせた男がFacebook上にその画像をアップしたことをきっかけに逮捕される。
<p><クアンガイ省></p> <ul style="list-style-type: none">・2020年4月～2021年7月：近所に住む男が、当時4～5歳の男児に対して20回以上にわたり猥褻行為、性的虐待。

(出所) *Dại đoàn kết* 2023年1月12日、*Sài Gòn Giải phóng* 2023年3月28日、2024年10月26日に基づき、筆者作成。

おわりに

ここまでベトナムの子どもをめぐる状況を見てきた。右肩上がりの経済成長と現代化の推進を背景として、乳幼児の健康状況の改善、教育レベルの向上・教育機会の多様化、教育施設の改善といった健康面・教育面で積極的側面が確認された。その一方、日本を含めた各国と同様に、ベトナムの子どもは多くの問題に直面している。少子化、二重負荷の問題、インターネットとりわけ巨大プラットフォームやソーシャルネットワークの浸透が子どもにもたらす影響、非行、子どもに対する暴力や虐待などの問題をベトナムも抱えている。ここでの筆者の役割は、積極的側面については評価しつつも、ベトナムの抱える諸課題について考えることである。最終年度となる2026年度には、直面する負の側面において、ベトナムでは子どもをどのように守ろうとしているのかについて調査研究を行う。

〔参考文献〕

阿部彩 2008 『子どもの貧困——日本の不公平を考える——』 岩波書店。

寺本実 2025 「ベトナムの子どもたちの生活環境——現地資料に基づく理解の試み——」 寺本実編 2025 『アジアの子どもたちの生活環境——基礎理論研究会成果報告書——』 アジア経済研究所、22-36頁。

Đặng Hoa Nam [ダン・ホア・ナム] 2022. Vì sao cần phát triển mạng lưới bảo vệ trẻ em [なぜ子ども保護ネットワークを発展させる必要があるのか] .*Tạp chí Lao động và xã hội* Số 663+664 từ 16/01-15/02, pp. 25-26.

Đặng Hoa Nam [ダン・ホア・ナム] 2023. Cam kết thực hiện công ước liên hợp quốc về quyền trẻ em của Việt Nam [ベトナムの国連子ども条約実行コミットメント] . *Tạp chí Lao động và Xã hội* số 686+687 từ 1-31/1/2023, pp. 15-16.

Đặng Thị Hoa(ダン・ティ・ホア) 2025. Ảnh hưởng bạo lực gia đình đến sức khỏe tâm thần của trẻ vị thành niên ở Việt Nam(ベトナムにおける未成年者の精神的健康に対する家庭内暴力の影響).*Viện Xã hội học và Tâm lý học (cb) (社会学・心理学研究所編). Những vấn đề tâm lý của thanh thiếu niên trong bối cảnh hiện nay(Kỷ yếu hội thảo quốc tế)(国際シンポジウム：現在の背景下における青少年の精神的問題). Nhà xuất bản khoa học xã hội(社会科学出版社), pp.201-213.*

Tổng cục thống kê [統計総局] 2024. *Niên giám thống kê 2023 [2023年鑑統計]* .Nhà xuất bản thống kê [統計出版社] .

Tổng cục thống kê 2025. *Niên giám thống kê 2024*.Nhà xuất bản thống kê.

UNICEF 2021.*Landscape Analysis on Childhood Overweight and obesity: Vietnam*.UNICEF.

<新聞>

Đại đoàn kết(大団結紙)

Sài Gòn Giải phóng(解放サイゴン紙)

Nhân Dân(人民紙)

<インターネット>

Save the Children Japan ウェブサイト

(https://www.savechildren.or.jp/scjcms/sc_activity.php?d=4837)

[ITU_HHManual_ICTskills_rev2025.pdf](https://www.itu.int/en/ITU-D/Statistics/Documents/publications/manual/ITU_HHManual_ICTskills_rev2025.pdf) (https://www.itu.int/en/ITU-D/Statistics/Documents/publications/manual/ITU_HHManual_ICTskills_rev2025.pdf)

Vietnam News(<https://vietnamnews.vn/Society/1658944/vietnamese-labourers-find-more-opportunities-working-abroad.html>)

〔付記〕

2025年12月7日～14日にベトナムで現地調査を実施した。ご多用の中、時間を割いて下さり、貴重なお話を聞かせて下さった皆様に心から感謝申し上げます。

〔注〕

¹ 寺本2025では、ベトナムの子どもに関する基本的な法として現在も位置付けられている2016年子ども法（2016年4月5日制定、2017年6月1日施行）について考察した。同法は2018年と2024年に改正されたが基本を維持している。「子ども」の年齢については、ベトナムは国連子どもの権利委員会から、18歳未満に引き上げるように求められている（Đặng Hoa Nam 2023:16）。

² 2025年4月14日、地方行政制度の整理・再編に関する首相決定759号が発出され、7月1日から実施された。これにより、ベトナムの地方行政区分は直近の57省6中央直轄市（2025年1月にトゥアティエン＝フエ省が6つめの中央直轄市フエ市になった）から、28省6中央直轄市となった。本稿の内容に大きな影響を与えるものではないため、本稿に登場する地名は依拠資料に記された地名をそのまま用いる。

³ ベトナムの教育制度は基本的に次のように定められている。幼稚園（3カ月～3歳まで/3歳～6歳）、小学校（5年間：6歳～11歳）、中学校（4年間：11歳～15歳）、高校（3年間：15歳～18歳）、（以上、2019年教育法26条、28条）、これ以降大学。2019年教育法14条によると、小学校までの教育を終えることが義務づけられている。順調に進学した場合、子どもたちは高校在学中に16歳未満という枠から、出ることになる（寺本2025:23）。

⁴ 計算すると、小学校では、2020-2021に教員1人当り生徒数が23.1人であったものが、2024-2025には22.8人となっている。

⁵ 教員1人当り生徒数を計算してみると、中学校では2020-2021に20.6人であったものが2024-2025に23.4人、高校では同時期に18.9人から21.0人に増加している。大学について

は、2019年に22.9人であったが、2023年には28.0人に増えている。

⁶ 2024年7月段階で世界50カ国で60万人のベトナム人が働いているとの報道がある (<https://vietnamnews.vn/Society/1658944/vietnamese-labourers-find-more-opportunities-working-abroad.html>)。

⁷ Nhân Dân (2021年2月28日)、Sài Gòn Giải Phóng (2020年5月13日)でも人口置換水準を2.1と記している。

⁸ Zalo はベトナムで普及している連絡アプリで、メッセージや通話だけでなく、公式アカウントもあって SNS としての機能が強い。学校の連絡網や地域の公的医療機関・警察・行政の通知にも使われている。筆者も調査の現場で、ベトナムの人たちが頻繁に使用しているのを確認している。

⁹ Tổng cục thống kê 2025 には定義を見つけることは出来なかった。ITU (国際電気通信連合) は、情報技術の基本的レベルとして、メールの送受信やウェブ検索を含む複数の基本的 ICT スキルを挙げている (ITU_HHM_ICTskills_rev2025)。

¹⁰ 同議定の対象には、Facebook、Instagram、TikTok も含まれるはずである。しかし Facebook と Instagram を運営する Meta Platforms, Inc. (アメリカ) はベトナムに現地法人を持たないため、実際には13歳以上から使用できるという国際ルールが「適用」される余地がある。TikTok を運営する ByteDance Ltd. (中国) は、ベトナムに現地法人を持つため、状況は異なる。子どもに関する国家委員会や情報・通信省 (現在の科学技術省) は在ベトナム TikTok の活動の全面的な検査も実施している。

¹¹ 2025年2月18日に第15期第9回国会で、政府の組織構造改変に関する決議176号が可決され、2025年3月1日から正式に実施された。これまで子ども問題を主管してきた労働・傷病兵・社会省は内務省と統合され、子どもの問題は医療省が管轄することになった。

¹² ベトナムで著名な有力大病院の1つ。

¹³ sở Thích は、直訳すると「嗜好」や「趣味」。文脈に沿って意識を試みた。

¹⁴ SNS という略称は筆者が書き加えた。

¹⁵ データ数値が平均からどれくらい離れているかを標準偏差で表した値。

¹⁶ 5歳未満乳幼児については、過体重基準は BMI-for-age がプラス2SD (標準偏差) 超、肥満の基準は BMI-for-age がプラス3SD (標準偏差) 超となっている。

¹⁷ この表記から、ここでは過体重に該当した生徒数と肥満に該当した生徒数が、全生徒数に占める割合を示すと考えられる。

¹⁸ これに対し、これら3校の栄養不良率は3.1%であった (*Đại đoàn kết* 2025年3月14日)。

¹⁹ 2023~2025年に外務省の日本 NGO 連携無償資金協力などを活用して実施されている (Save the

Children Japan ウェブサイト)。

²⁰ 報道日から考えて、2023年速報値だと考えられる。

²¹ 阿部は、日本の少年院に入所している子どもたちに関する岩田美香氏による調査研究の紹介を通し、「非行の影に、貧困という社会問題が存在する」可能性を認識する必要を指摘している(阿部 2008:14-15)。

²² 2025年12月8日にベトナムで実施したインタビューで、社会問題の専門家は昔も今も状況は変わっておらず、情報機器の発達により情報が伝わりやすくなったためだと考えていると述べた。

²³ 筆者が調べた範囲ではベトナムの代表的な統計書である統計年鑑(Tổng cục thống kê)に体罰の項目は見つけることが出来なかった。未確認であるため、あくまでも可能性があるとして述べるに留める。

²⁴ 2025年12月8日にベトナムで社会問題専門家に対して行ったインタビュー実施したインタビューでは中国から影響を受けた教育哲学に起因しているとの指摘があった。また、2025年12月11日に同じくベトナムで実施した援助関連機関におけるインタビューでは、ベトナムの教育現場で体罰が使用されているケースもあるとのお話をうかがった。

²⁵ 項目間の重複があるか、ないかについては確認していない。また Tổng cục thống kê 2024、Tổng cục thống kê 2025 において「体罰」の項目の存在は確認していない。

²⁶ 2025年12月8日にベトナムのセーブ・ザ・チルドレンのスタッフに実施したインタビューでは、プロジェクトの中に子どもの保護に関する啓蒙活動を組み入れているということであった。